

科目名	国文学史Ⅰ			担当教員	大石 真由香	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JLI103
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	反転授業					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、国文学史（古典文学分野）についての講義を行う。					
到達目標及びテーマ	〈テーマ〉日本古典文学の発生と発展の流れを学び、伝統的な言語文化に対する知識と理解を深める。 〈到達目標〉 ○日本古典文学の発生と発展の流れを理解し、読解のための基礎的な知識を身につけている。 ○各時代・各ジャンルの代表的な文学作品を把握し、その概略と特色を説明することができる。 ○「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら」古典文学作品を解釈し、鑑賞することができる。					
授業の概要	講義はおおよそ時代の流れに沿って進める。受講者は事前学習として各回における教科書の該当ページ（授業計画参照）を読み、内容を把握してくる。各回のはじめに、ユニバを用いて理解度を確認するための小テストを行う。その後、各時代・各ジャンルの代表的な作品を取り上げ、成立背景にある社会・文化との関わりを踏まえ、「他の作品などとの関係を踏まえながら」他作品と比較しながら読んでゆく。 【デジタル技術利用：④、⑥】					

授業計画	
第1回	授業ガイダンス
第2回	国文学史の概略（p 1 2，1 3，3 4，3 5，6 8，6 9，1 0 4，1 0 5）
第3回	記紀・風土記（p 1 4～1 7）
第4回	万葉集（p 2 4～3 0）
第5回	漢詩文（p 3 0，3 1，3 6，3 7，1 3 4，1 3 5）
第6回	八代集・歌論（p 3 8～4 3，6 5，7 0～7 2）
第7回	前期物語（p 4 4～4 7）
第8回	源氏物語（p 4 7～5 0）
第9回	日記文学（p 5 5～5 8，8 8，8 9）
第10回	歴史物語・軍記物語（p 5 2～5 4，7 8～8 4）
第11回	随筆・法語・説話（p 1 8，5 9～6 4，8 5～8 7，9 0～9 6）
第12回	連歌・俳諧（p 7 5～7 7，1 1 7～1 2 2）
第13回	近世の小説（p 1 0 6～1 1 6）
第14回	芸能・国学（p 9 7～1 0 1，1 2 5～1 3 3）
第15回	まとめと確認テスト

事前学修	2時間	各回講義前までに教科書の該当ページ（授業計画参照）を読み、内容を理解しておいてください。 各回のはじめに理解度を確認する小テストを行い、基礎知識が身につけていることを前提として講義を進めます。
事後学修	2時間	教科書の該当箇所および配布資料を再読し、講義内容の定着を図ってください。 各回の小テストおよび講義内容は、第 1 5 回確認テストのテスト範囲になります。
フィードバックの方法	・毎回授業のはじめにユニバを用いて小テストを行い、即時採点することで受講生が即座に自分の理解度を確認できるようにする。 ・希望者には、採点した確認テストの解答用紙の閲覧ができるようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない

上記以外の試験・平常点評価	70%	第 1 5 回確認テスト（教科書、講義内容を出題範囲とした論述試験）
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回授業のはじめに実施する小テスト、適宜提出してもらおうリアクションペーパー
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
原色新日本文学史 [増補版]	秋山虔・三好行雄編著	文英堂	978-4-578-27192-5	初回授業に間に合うように購入してください。
参考資料	・古語辞典（電子辞書可。確認テストの際の参照物になりますので、各自用意してください） ・新編日本古典文学全集など ・高等学校学習指導要領「言語文化」「古典探究」、高等学校「言語文化」「古典探究」教科書			

科目名	国文学史Ⅱ			担当教員	大石 真由香	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JLI404
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、教材として日本古典文学を探究し、「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら」作品を読解する視点を獲得できるよう、指導および講義を行う。					
到達目標及びテーマ	テーマ：教材として日本古典文学を探究し、「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら」作品を読解する視点を獲得する。 到達目標： ○古典文学作品を教材として探究する視点を身につける。 ○日本古典文学の展開と変遷を理解し、「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら」古典文学作品を自ら読解することができる。 ○古典文学の「作品の価値について考察」するための授業を展開することができる。					
授業の概要	本講義では日本古典文学に関する5種のテーマを掲げ、受講者を5種10グループに分ける。各グループで模擬授業を行い、受講者全員でその内容を議論するという方法で進める。模擬授業や議論を通して、高等学校学習指導要領「古典探究」に記載される、「作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら」古典文学作品を読み、「作品の価値について考察」する視点と方法を身につける。受講者には自身の発表（模擬授業）準備の他、毎回、他のグループの作成した資料をあらかじめ読解してくることを求める。 【デジタル技術利用：①、③、④】					

授業計画	
第1回	授業ガイダンス、「古典探究」のために
第2回	グループ分け、高等学校学習指導要領「古典探究」を読む、プレゼンテーション内容についての打ち合わせ
第3回	プレゼンテーションのための資料作成
第4回	高等学校「古典探究」の教材【講義】
第5回	小中学校国語教科書の古典教材【講義】
第6回	和歌の前時代作品の摂取と歌風の変遷を知る①【プレゼンテーション】
第7回	和歌の前時代作品の摂取と歌風の変遷を知る②【議論、講義】
第8回	平安時代の物語文学作品から当時の恋愛・結婚観を知る①【プレゼンテーション】
第9回	異なる時代の作品同士を比較し、文学作品の摂取と変遷を知る①【プレゼンテーション】
第10回	平安時代の物語文学作品から当時の恋愛・結婚観を知る②【議論、講義】
第11回	異なる時代の作品同士を比較し、文学作品の摂取と変遷を知る②【議論、講義】
第12回	ひとつのものがどのように多様に語られるかを知る①【プレゼンテーション】
第13回	古典作品と近代文学を比較し、主題の違いを知る①【プレゼンテーション】
第14回	ひとつのものがどのように多様に語られるかを知る②【議論、講義】
第15回	古典作品と近代文学を比較し、主題の違いを知る②【議論、講義】

事前学修	2時間	発表担当者は資料を作成し、授業中に指示する日時までに提出してください。 受講生は事前に提示する他のグループの発表資料を読解し、質疑応答に参加できるよう疑問点などをあらかじめ考えておいてください。 発表担当者・聴き手ともに、議論に参加するために十分な準備を行った上で授業に参加してください。
事後学修	2時間	発表を終えたグループは、期末レポートに向けて発表で指摘された点など調査が不十分であった点についてさらなる調査を進めてください。 これから発表するグループは、各回の質疑応答で指摘された点を修正した上でグループ発表ができるよう、準備を進めてください。

フィードバックの方法	発表に対し、授業内にコメントする。
------------	-------------------

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない
レポート	30％	学期末に、プレゼンテーションの内容に関するレポートを課す。
上記以外の試験・平常点評価	30％	プレゼンテーション（発表資料、発表内容、受講生による相互評価）
上記以外の試験・平常点評価	40％	授業への参加度（議論時の発言、小レポートの提出）
補足事項	＊当該科目の履修には「国文学史Ⅰ」を履修済みか、履修中であることが必須です（「不可」＝履修中、「失格」＝未履修と見なします）。「国文学史Ⅰ」が未履修であることが判明した場合、出席日数や平常点に関わらず当該科目は「失格」となります。 ＊「公欠」を含め欠席４回で「失格」となります。また、第１～３回に一度も出席できない場合、「失格」となります。今年度、小学校・中学校教育実習を履修する者は履修できません。 ＊忌引・病欠等の場合、授業開始時間までに大石まで連絡ください。課題提出により「公欠」扱いになりますが、「欠席４回」のうちの１回に数えることは変わりません。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
原色新日本文学史〔増補版〕	秋山虔・三好行雄編著	文英堂	978-4-578-27192-5	「国文学史Ⅰ」で使用したテキスト
参考資料	・古語辞典（電子辞書も可）、古典の文法書（高校生の頃に使っていたものでよい） ・新編日本古典文学全集（小学館）、新日本古典文学大系（岩波書店）、和歌文学大系（明治書院） ・高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領、小学校学習指導要領、高等学校「言語文化」「古典探究」教科書、中学校国語教科書、小学校国語教科書など。			